

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270300740		
法人名	社会福祉法人うぐいす会		
事業所名	稲毛グループホーム		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町153-1		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事、おやつに関して全て手作りでっており、入居者の皆様も楽しみにしていっしょにいます。  
入居者全員が関わられるような食事作りの日も企画しています。  
買い物ツアーなどの企画もして、入居者の皆様日々楽しく過ごせる様な支援を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

稲毛グループホーム設立時に、法人の理念を基本としてホーム独自の5つの理念を全職員で話し合いながら作成している。その中でも「利用者の希望に沿った支援」を最重点にここは生活の一部であるという観点から、職員が手を出し過ぎてしまうという事が無いよう意識し、自立の支援を心がけている。  
施設はバス停に近く交通量の多い道路に面しているが建物の中は静かで、近隣にはコンビニやスーパー、飲食店があり利用者の生活に便利な立地となっている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマンネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成22年3月11日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に、全職員でホーム独自の理念を作り上げ、それを額に入れ玄関に掲げている。毎朝の申し送り時に理念を唱和しているが、全職員に浸透しているとまではいかない。	常に理念に立ち返ることが出来るように、ネームプレートにコピーをいれていつでも見ること意識を高める努力をしている。毎朝の申し送り時に気がついた事があれば、理念に沿った考え方を職員に伝えるようにして理念の共有化を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣2箇所の幼稚園を交流している。園児が来所すれば一緒に散歩をする。また、入居者も幼稚園を訪問するなど交流を図っている。散歩をしていると地元住民より声を掛けられることが多くなった。小学校で夜行なわれる地域の盆踊りなどにも参加している。	小学校の行事に参加するなど地域との交流がすこしづつ展開してきていて、散歩時の近隣の方の声かけも頂けるようになってきている。ホームの特徴を活かした情報の発信を行い、地域の理解をさらに深めることを今後の検討課題としている。	自治会の加入が検討段階にある。事業所の特徴を活かした活動として認知症に関する講習会を開催するなど、地域との交流を深めていかれることを期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では取り組まれていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は現在、入所者家族の代表・民生委員・地域包括支援センター職員らで構成されている。内容はホームの現状の報告に留まっている。	運営推進委員会を定期的開催出来る体制になっていない。ホームの現状報告にとどまらず、地域貢献に対する意見の提案や、地域代表として自治会の会長の出席を求めなどを検討していかれることを期待する。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の市民課とは入居者についての相談や状況報告通じて、連携を密にしている。市からも職員がホームを訪問する事があり、情報交換をしている。	市からは3ヶ月に一度程度の訪問を受けている。事業所からのアプローチとして、市に出向いた機会をとらえ相談などを行い連携を密にするよう努力している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束の事を理解しており、取り組んでいる。	身体拘束をしない方針は職員がよく理解しており情報も共有化されている。実践的にはマンツーマン体制で取り組むようにしており、夜間はそばにいないようにして対処している。担当者会議の部分の厚くして身体拘束防止に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	順次、研修会に参加しているが、全職員で学ぶ機会を持ってはいない。朝の申し送りなどで話しをする事はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ある程度の理解がある人もいるが、完璧に理解をして活用にまでは至っていない。また全職員に関してみると制度としては知っていても、理解はしていないと思われる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が契約等の対応をしている。利用者や家族と話して対応、説明を行なっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聞くために積極的に声かけをし、できるだけ率直な話しを聞きだせるように努めている。玄関には意見箱を設置している。	家族の来所の機会を捉えて、率直な意見や希望を聞きサービス運営に反映するように努めている。家族会を開催することを検討されてる。家族や利用者の意見や提案を汲み取り反映されることを期待する。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員からの意見を聞き、施設長へ提案している。	管理者が毎朝のミーティングを通じて職員と意見交換をしたものを施設長に提案している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回業務自己功課を行い、状況の把握等に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行なわれる研修会は主に常勤職員を対象に日程等が案内されているが、これまで参加した人は少ない。また、法人内でも年3～4回、介護技術などの勉強会が実施されているだけである。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会に加入しているがあまり参加していない。また、他の事業所との交流もこれからの課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>情報収集に努め、要望を達成できる様にしている、</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>同上</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族とよく話しあい支援できる様に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は入居者を人生の先輩として、尊敬の念を持って接している。入居者からは例えば、料理を教わる機会も多い。職員が入居者に励まされる事もあり、互いに支えあう関係ができています。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>今月の様子という用紙を作り、ご家族に施設での様子を月々お知らせしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会などに関しては、断る事は全くしていませんが、施設側から出向いたり、間に立ち面会等を促したりする事はない。</p>	<p>家族による一週間に一回の訪問が3割ほどある。本人の希望があれば手紙を出すなどして、友人や馴染みの方との交流を支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>席替え等1人ひとりが親しくなれる機会を作れる様にしている。声かけ等でもお互いに思いやりの持てる様な声かけを行なっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所していかれた方が少ないが、現状としては経過フォローは行なえていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはホーム独自のアセスメントシートを使って入居者の思いや意向について家族に記入してもらい、関係者からの情報を得ようとしている。入所後も、ご本人との会話の中で希望を汲み取っていくなどの努力をしている。ご家族にもお話しができる時などには、極力希望を聞く様になっている	個人の連絡帳、ケース記録、対応を記録したものの、うながしなどを普段接している職員が記入し、利用者の思いや意向を把握している。朝のミーティングに具体的な対応を材料として意見を交換して意向に反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集は、出来る範囲行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で把握に努めて、連絡帳や申し送りにて変化を全職員が統一して対応できる様にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と話し合いの場を定期的に持つ事は出来ていないが、ご本人には日々の介護や会話の中で、ご家族には来所された時などにお話しができる時間を貰える様にしている。	介護計画の作成や見直しに当たっては、サービス提供責任者から直接聞き取りをし、利用者や家族の意見を反映出来る様に取り組んでいる。介護計画の変更時にレベル的に低下してきている場合はケアマネ・リーダー・管理者等で検討の場を持つている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳等にて情報を共有している。ケアマネージャーへも随時相談している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所介護事業が併設されているので、送迎用の車を借りて、買物・通院等の外出や機械浴での入浴など柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源がどのような物か不明だが、近所のスーパーなどへの買物に一緒に行ったり、利用者が希望する病院への受診など同行している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療については、入居者がこれまでかかりつけにしていた主治医が良いかそれとも訪問してくれるホームの協力病院にするか、どちらでも選べるようにしている。受診時の通院介助についても、家族と話し合っ対応している。	近隣の総合病院や訪問診療可能な内科・歯科医とも協力関係を築いている。家族が付き添えない場合でもかかりつけ医への受診継続ができるよう支援することで本人・家族が安心できる医療体制を心がけている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護職がいないが、併設のサービスの看護師に急変時や不安な際には状態を伝え、その都度相談し、アドバイスを貰い、対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	完璧とはいえないが、確認事項に関しては、答えられるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族が病院ではなく、グループホームでの終末を望む場合には、協力病院等の見解も参考にしながら対応の方向を模索している。法人は別の場所で介護老人保険施設(特養)も運営しており、そちらを紹介することもある。	ターミナルケアを目指していきたいという思いはあるが具体的な方向づけには至っていない状況である。他所で運営している介護老人保険施設も入所待ちという現状の中、病状の悪化に伴い病院への入院措置をとっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練など行なっていない。急変時の対応に関しては、申し送りの中で伝えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害時のマニュアルがあり、消防訓練も定期的に行われている。自動通報装置やスプリンクラーも完備しているが、ホームは3階・4階にあり、特に夜間の人手がない時間帯の避難に不安がある。	階下への階段は施設の内と外に設けてあり職員だけではなく入所者も交えて階段を使用するの避難訓練を行ったことはあるものの21年度はまだ実施していない。施設内には防災設備を整え緊急時の連絡・通報体制は職員間で共有している。	運営推進会議等を利用し民生委員や地域関係者に施設内の構造を理解してもらうとともに災害時の協力関係を構築されることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや個人情報の保護については、マニュアルを備え、日常の声かけや対応で入居者を傷つけることが無いように配慮している。また個人記録の保管にも注意している。	個人のプライバシー尊重を念頭に置き、自ら積極的に会話をしない入所者や個々の性格などにも考慮しながら職員側から常に声かけをすることで入所者の気持ちに沿った対応を工夫している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力、ご本人に聞く対応をしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日の流れはあるが、入所者には買い物や散歩などの希望もあり、できるかぎり一人ひとりの状態や意向に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に確認しながら、お手伝いをしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に行く事もあり、準備も入居者と職員と一緒にしている。後片付けや食器拭きなど、入居者の役割は多い。	食材の買い物から準備・調理・盛り付けまで入所者と職員とが一緒に楽しみながら行っている。おにぎりや餃子・おやつ作りなど皆で取り組み、食事作りに携われない人も野菜の皮むきや食器拭きなど一人ひとりの能力に合わせ参加している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立作り、大まかな摂取量を把握し記録している。また、水分については食事やお茶の時間で確保するようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方には自分で行なえる様に声かけし、出来ない方に関しては、手伝いをしている。また、拒否される方には時間をおき、声かけし、無理強いしないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、時間での声かけを行なっている。	排泄は自立者がほとんどだが誘導が必要な入所者に対しては排泄リズムを把握し時間を考慮した声かけを実行している。入所時紙パンツやパットを使用していた人も現在は通常の下着で生活できるようになっているなど自立支援につながっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は全員同じだが、飲み物を工夫して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は平均週2～3回で、入居者のその日の気分や体調などを確認した上で、できるだけ気持ちに沿った入浴支援ができる様に努めている。また、普通の浴槽では入浴が難しい入居者には、サービスセンターにある機械浴を利用してもらおうなどの配慮をしている。	入浴は多い人で週4回入る方もいるが入浴拒否の入所者に対しては無理強いせず、そのときに応じた声かけや他の職員に替わって再度声かけを試みたりすることで週に1回は入浴してもらえるように配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に確認しながら、行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情報を表にして、全職員が見られる様にしている。管理は職員が行い、服薬時に渡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや後片付け・掃除など、日常の中で、一人ひとりの役割や楽しみ事を作る様に支援している。レクリエーションにも工夫をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の食材の買出しの他、天気の良い日にはホーム近くを散歩に出掛けたりしている。併設のサービスの車で外出する事もある。	歩いて10分程の店や車で行くスーパーなど食材の買い物には毎日のように出かけている。階下併設のサービスが作っている畑の野菜の水やりやホームの居室を囲むベランダで花を育てたりと外の空気に触れる機会も大切にしている。成田山まで遠出したり外食に出かけるなども支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員はお金を所持していない。時折、買物ツアーを企画し、個々に欲しい物を購入して貰う企画をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があれば、電話をかける様にしている。手紙に関しても同様に希望があれば対応している。職員の方から促す事はしていない。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングは日当たりよく、見晴らしのよい場所にソファが置かれている。全体的に家庭的で温かな雰囲気がある。切り花や鉢植えなどで季節感がもてる様にしている。	玄関は施錠せず鈴音で人の出入りを確認している。リビングは大きな窓から周囲が見渡せ開放感があり、壁には入所者の写真や季節を感じさせる絵や花の作品が飾られ明るい。日当たりよいベランダでは花の水やり、布団干し、洗濯物干しを入所者と共に行っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者間のトラブルが起きない様、席の配置やテーブルの位置には気を遣う様に心がけている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や思い出の品などが思い思いに持ち込まれ、一人ひとりが自分らしい部屋作りをしている。	個室の扉には貼り絵や文字で大きく氏名が記されており誰の部屋かわかりやすくなっている。本人が作成した折り鶴や色紙の花を貼ったりと個性が現れている。筆筒や鏡台など使い慣れた物を配置し、好みのカーテンをかけるなど自由になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングより見渡せる配置になっているが、全てが自立した生活となっていないのが現状で今後の課題と思われる。		